環境経営レポート

令和4年度

（対象期間：令和4年7月～令和5年6月）

作成年月日：令和5年　7月　19日

株式会社　市川自動車

目次

1. 組織の概要 ・・・ Ｐ １

2. 環境経営方針 ・・・ Ｐ ２

3. 実施体制 ・・・ Ｐ ３

4. 環境経営目標 ・・・ Ｐ ４

5. 環境経営計画 ・・・ Ｐ ５

6. 環境経営目標の実績 ・・・ Ｐ ６

7. 環境経営計画と評価及び次年度の取組内容 ・・・ Ｐ ７

8. 環境関連法規の遵守状況 ・・・ Ｐ ８
　　評価結果並びに違反、訴訟等の有無

9. 代表者による全体評価と見直し・指示 ・・・ Ｐ ９

1　組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

株式会社　市川自動車

代表取締役社長　　市川哲也

2. 所在地

名　称	所　在　地	備　考
コバック横砂店	静岡県静岡市清水区横砂1585	サイト認証
オートザム清水	静岡県静岡市清水区築地町10-10	サイト認証
コバック港店	静岡県静岡市清水区日の出町2-40	認証対象外
コバック 静岡インター店	静岡県静岡市駿河区中島428-1	認証対象外

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者　　平岡博多　　TEL　　054-368-4376
事務担当者　　曽根邦光　　FAX　　054-368-4378
E-mail　　k-sone@ichikawa-group.com

4. 事業活動

自動車整備及び販売,カーリース、保険（生保・損保）

5. 事業規模

項　　目	令和5年6月30日現在
売　上　高	全社　9億2千万円
従　業　員　数	全社　54名 （内訳:　横砂　17名、港店　6名、オートザム　14名、インター店　17名）

6. 事業年度

7月1日～翌年6月30日

7. 認証・登録の対象範囲

活動;　　全事業活動

対象組織;オートザム清水、コバック横砂店（サイト認証）

2 環 境 経 営 方 針

株式会社　市川自動車　環境方針

[環境理念]

株式会社市川自動車は、自動車整備・販売の業務を通じて温暖で自然豊かな地域環境、さらには地球規模の環境を守るため、常に環境に配慮した事業活動に努め、環境と調和した経済発展に寄与する企業を目指します。

[基本方針]

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、環境経営を継続的に改善します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量の削減、化学物質等の適正管理に努めます。
   1）電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努めます
   2）3R活動の展開による廃棄物の削減に努めます
   3）節水活動による水使用量の削減に努めます
   4)化学物質を扱う際は適正管理を行うよう努めます。

2. 環境関連法規制等の遵守
   環境関連法規制を遵守します

3. 環境に配慮した販売活動
   1）事務用品や原材料等のグリーン購入に努めます
   2）環境に配慮した製品の販売を推進します

4. 環境コミニュケーションの実施
   1） 社外に環境活動レポートを公開し、利害関係者のみならず社会との
   　　より良いコミニュケーションを図って行きます
   2） 社内においては、全従業員に環境方針を周知し、全社員参画による
   　　取組を目指します

制定年月日　　平成　28年　1月　1日（初版）
改定年月日　　令和　 2年　7月　27日

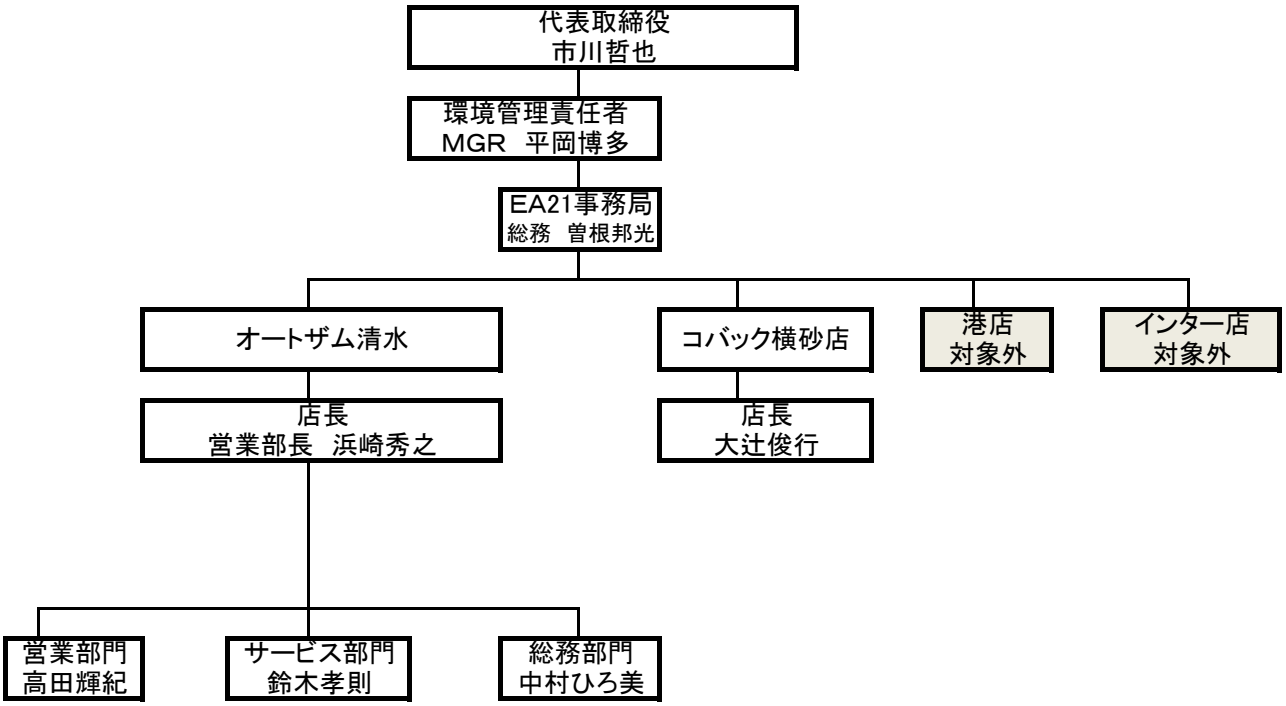
株式会社　市川自動車

代表取締役社長　市川哲也

3　実施体制

令和5年6月30日　現在

実施体制



＜関係者の権限と役割＞

社長及び代表

①環境経営全般に関する責任と権限
②環境経営に必要な資源の準備
③環境経営システム全体の評価と見直し
④環境管理責任者の任命
⑤環境方針の策定

環境管理責任者

①環境経営システム全般の運用・管理
②環境経営目標及び環境経営計画の作成
③取組状況の社長への報告
④環境活動レポートの作成

EA21事務局

①環境負荷データ等の集計
②環境経営目標・環境経営計画の進行管理
③「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施
④環境管理責任者へ取組状況の報告
⑤法規制の遵守状況チェック
⑥文書・記録の管理

店長

①部門の環境経営計画の実施
②部門データの集計
③部門の問題点把握と是正対策の実施
④部門取組状況の事務局への報告
⑤部門の従業員教育

その他の従業員

①自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

4　環境経営目標

短期・中長期環境目標

環境目標は令和3年度を基準年とした基準年比とする。

項目		単位	3年度 R4/6期 (基準年)	5年度 R6/6期	6年度 R7/6期	7年度 R8/6期	8年度 R9/6期
二酸化炭素排出量		kg-CO_2	77,381	-4% 74,286	-5% 73,512	-6% 72,738	-7% 71,964
	電力	kWh	98,232	-4% 94,303	-5% 93,320	-6% 92,338	-7% 91,355
	ガソリン	L	7,380	-4% 7,085	-5% 7,011	-6% 6,937	-7% 6,863
	軽油	L	2,301	-5% 2,186	-7% 2,140	-9% 2,094	-11% 2,047
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	44.8	-7% 41.7	-9% 40.8	-11% 39.9	-13% 39.0
	一般廃棄物	kg	1440.0	-6% 1354	-7% 1339	-8% 1325	-9% 1310
水使用量		㎥	681	-5% 647	-6% 640	-7% 633	-8% 626
化学物質使用量(油脂類)		—	—	適正な管理・使用			
環境に配慮した製品販売		台数	94	前年比 +5%	前年比 +6%	前年比 +7%	前年比 +8%

(注)

1)「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、鈴与商事の3年度「0.612kg-CO_2/kWh」を使用した。
この排出係数を令和8年度まで使用する。

2)今年度よりコバック横砂店を含めた計画に変更したため基準年をR3年度に変更した。

5　環境経営計画

（取組期間：令和5年7月～令和6年6月）

環境活動項目（令和5年度）			責任者
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	A.効率的な回送、訪問ルートの選定	浜崎
		B.急発進・急加速の禁止	
		C.車両の定期的なメンテナンスを実行する （タイヤ空気圧など）	
		D.定期的な洗車と車両チェックを行い必要なメンテナンスを行う	
	運転管理等	A.同方向は相乗りの励行	高田
		B.エアコンの適正温度設定での使用を励行	
		C.社有車、試乗車の利用後はエアコン、カーステなどを切る	
		D.	
	空調等	A,室温を夏季26℃、冬季20℃に保つ	浜崎
		B,クールビズ、ウォームビズの実施	
		C,空調フィルターの定期清掃（GW前、冬期休暇前　2回／年）	
		D,断熱フィルム西側検討	
		E、	
		F,	
	工場・事務所	A.6S活動の実施	大辻
		B.ゴミ箱を減らし、ゴミの発生を抑える	
		C.工場内のLED化検討	
		D.生産工程の見直し	
		E.コンプレッサーのエア漏れチェック	
		F.未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他）	
		G. 誤発注、発注漏れの削減	
		H.不良品の削減（不良率3%以下）	
		I.	
水使用量の削減			高田
	機器の管理に努め水漏れを防止する （ノズル交換）		
	食器・タオルなどを洗う際水を出しっぱなしにしない		
廃棄物の削減	印刷ミスの削減		塩原
	封筒などの再利用		高田
	分別回収を徹底する		
	ペーパーレスに出来るのは変更する。		
リサイクルの推進	リサイクルパーツ・リビルト品の積極的な活用		鈴木
	廃プラスチックのリサイクル率向上		
	紙類のリサイクル率向上		
	アルミなどリサイクルルートの確立		
化学物質（油脂類）	使用化学物質のSDS入手		平岡
	購入量・使用量の把握		
	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理		
環境配慮製品販売	安全装備が搭載されている車両の販売推進　事故削減		浜崎
	”見守る保険”販売を強化し運転の自己チェックによりエコドライブに繋げ付保率50%超を目指す。		

備考

1） 取組期間は令和5年7月～令和6年6月の12ヶ月間である。
2） 評価判定は〇・△・×の3段階で行う。
3） 活動計画の見直しは、令和5年度(6年6月まで)が終了した時点で行う。（本期間中の見直しは行なわない）

6 環境経営目標の実績

前年をベースに、運用期間（令和4年7月～5年6月）の実績・評価 を以下に示す。

項目		単位	3年度 基準	4年度 目標	4年度 実績	実績削減率	評価
二酸化炭素排出量		kg-CO_2	83,177	−3% 75,060	87,688	5.4%	×
	電力	kWh	98,232	−3% 98,285	97,757	−0.5%	○
	ガソリン	L	7,380	−3% 7,159	11,194	51.7%	×
	軽油	L	2,301	−3% 2,232	733	−68.1%	○
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	44.8	−5% 42.6	52.6	17.4%	×
	一般廃棄物	kg	1440	−5% 1,368	1440	0.0%	△
水使用量		㎥	681	−4% 654	515	−24.4%	○
化学物質使用量（油脂類）		—	—	—	—	—	
環境に配慮した製品販売（安全装置搭載車）		台数	94	98	153	62.8%	○

未達成項目

ガソリン使用量	新車の車両販売が好調。コロナや半導体不足による納車遅れが一段落し、納車が進み満タンプレゼントの影響による増加がある。コロナで自粛していた活動も再開され、営業活動が活発化したことも要因と考えられる。
産業廃棄物	廃タイヤ・廃バッテリー・廃油の項目が増加した。 コロナの影響で自粛生活から一転、活動が活発になり タイヤやバッテリーの販売が進み売上の増加に繋がった。 一方、廃プラは分別回収が進み、前年よりも減少した。

7 環境経営計画と評価及び次年度の取組内容

（取組期間：令和4年7月～令和5年6月）

環境活動項目（令和3年度）			責任者	評価	コメント	今後（次年度）の取組内容
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	A.効率的な回送、訪問ルートの選定	浜崎	○	社有車の点検は空気圧点検が3ヶ月後とまでは出来ていなかった。	定期的に洗車、車両のチェックを行うようにする。
		B.急発進・急加速の禁止		○		
		C.車両の定期的なメンテナンスを実行する （タイヤ空気圧など）		○		
		D.3ヶ月点検空気圧などメンテナンスを行う		×		
	運転管理等	A.同方向は相乗りの励行	高田	○	社有車の降車時にエアコンやカーステが付けっぱなしになっている。	エンジン始動時に負荷を減らせるようにエンジンを切るときはカーステやエアコンを切る事を徹底する。
		B.低冷房運転の励行の強化		○		
		C.社有車、試乗車の利用後はエアコン、カーステなどを切る		×		
	空調等	A.室温を夏季26℃、冬季20℃に保つ	浜崎	△	冬は暖かくしすぎ？年1回の清掃になっている。夏用制服の導入が出来て体感温度が下がった。	ショールームは冬場は窓が大きいため暖かくなるので、温度設定を暖かくなりすぎないように注意する。
		B.クールビズ、ウォームビズの実施		○		
		C.空調フィルターの定期清掃（夏前、冬前　2回／年）		△		
		D.女性スタッフの夏用制服検討		○		
	工場・事務所	A.6S活動の実施	大辻	○	事務所のゴミ箱を減らしゴミの発生に努める。分別回収でゴミの削減ができた。車検別整備を先にして効率アップする事が出来た。コンプレッサーはチェック済み。まれに電灯の消し忘れがある。誤発注防止にむけて教育しているが更なる教育が必要。	事務所の電球交換は自分たちで行う
		B.ゴミ箱を減らし、ゴミの発生を抑える		△		
		C.工場内のLED化検討		○		
		D.生産工程の見直し		△		
		E.コンプレッサーのエア漏れチェック		○		
		F.未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)		△		
		G. 誤発注、発注漏れの削減		△		
		H.不良品の削減（不良率3%以下）		○		
水使用量の削減	機器の管理に努め水漏れを防止する （ノズル交換）		高田	○		
	食器・タオルなどを洗う際水を出しっぱなしにしない			○		
廃棄物の削減	印刷ミスの削減		塩原	△	コピー機の機能をしっかり活用する。改善の余地あり	
	封筒などの再利用			○		
	分別回収を徹底する		高田	○		
	ペーパーレスに出来るのは変更する。			△		
リサイクルの推進	シュレッダーダストの分別と雑紙扱いの可否確認する		鈴木	○		
	廃プラスチックのリサイクル率向上			○		
	紙類のリサイクル率向上			○		
	アルミなどリサイクルルートの確立			○		
化学物質（油脂類）	使用化学物質のSDS入手		平岡	○		
	購入量・使用量の把握			○		
	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理			○		
環境配慮製品販売	安全装備が搭載されている車両の販売推進　事故削減		浜崎	○	見守る保険付保率45%。	見守る保険50%越え目指し、エコドライブや安全に繋げる。
	"見守る保険"販売を強化し運転の自己チェックによりエコドライブに繋げ付保率50%超を目指す。			○		

備考

1） 取組期間の評価は令和4年7月～令和5年6月の12ヶ月間の実績評価である。

2） 評価判定は○・△・×の3段階で行う。

3） 活動計画の見直しは、令和4年度(5年6月まで)が終了した時点で行う。（本期間中の見直しは行なわない）

8　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

1.　環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日　令和5年6月29日
評価者　環境管理責任者　平岡博多

法律・条例	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	遵守評価
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の3R及び適正処理の推進	廃棄物の分別、行政への協力	○
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物の処理	市条例の収集・処理基準の遵守	○
	産業廃棄物の保管	保管基準の遵守、保管場所の表示	○
	産業廃棄物の委託処理	処理業者と契約書締結、許可証確認	○
	マニフェスト管理	マニフェストの交付、保管(A,B2,D,E票)	○
		D,E票の期間内返却の確認	○
	マニフェスト交付状況の知事報告	6/30までに報告書提出	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の選任	選任者　平岡博多	○
	委託先の実地確認と記録の保存	年1回現地確認を実施し、その記録を5年間保管する	○
家電リサイクル法	指定家電の廃棄時	リサイクル料金の支払（廃棄時）	○
自動車リサイクル法	自動車の廃車時	リサイクル料金の支払（廃車時）	○
リサイクル法	適正廃棄	パソコン、二次電池廃棄時	○
資源有効利用促進法	指定再資源化製品のリサイクルへの協力	メーカー回収への協力（パソコン、小型二次電池等の廃棄時）	○
環境基本法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
地球温暖化対策推進法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
省エネ法	省エネの自主努力	省エネ型モーターへの切替え	○
消　防　法	少量危険物の保管	消防署への届出	○
	火災予防	消火設備の定期点検	○
フロン排出抑制法	16条　空調機器　第1種特定機器	3か月に一度の簡易自主点検	○
	41条　エアコン・冷凍（冷蔵）機器の廃棄時	フロン回収業者への引き渡し	○
浄化槽法	10条　浄化槽の保守点検及び清掃の実施	1年に1回実施済み	○
	11条　指定検査機関による水質に関する検査の実施	実施済み	○
その他	リーチ（REACH)規制	リーチ適合材料の使用及び適合 製品の納入	○

2.　違反、訴訟等の有無

当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした

9　代表者による全体評価と見直し･指示

令和4年７月から１年間の取組について、期間中の環境目標の達成状況及び
環境活動計画の実施状況等について評価を行なった。
今期は電力使用量は抑えられたものの、新車販売が好調であった為、
納車時のガソリンプレゼントが増加した事も大きな要因であり、またコロナが収束に向かい、
営業活動も活発になり、ガソリンの使用量は活動に伴う増加と考えられる。
産業廃棄物も同様にコロナの収束に伴い、日常生活が活発化し、タイヤ･バッテリーの交換が
増加した。その一方で廃プラの分別化を進めて来たことが削減に繋がった。
社員のエコアクションによる活動が会社にとっても、地域社会にとっても貢献に繋がる。
電気使用量を過去を遡って調べたところ、５．６年前と比べて大幅に削減できていることが分かった。
エアコンを買替えたり、遮熱フィルムの効果も大きかったと思われる。
昨今電気料金の単価が上がり、料金自体は高くなっているが、数年前から取り組んできた
ことが経費削減にも大きく効果があり大変良かった。
エコアクション２１の取組が、企業経営者のみならず個々の従業員にとってもお客様にとっても
有意義なものとなることを期待する。

見直し項目		変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	有・(無)	
2	環境経営目標	有・(無)	
3	環境経営計画	(有)・無	未達成の目標については環境経営計画を見直し手段を増やすこと
4	環境に関する組織（実施体制含め）	有・(無)	
5	その他のシステム要素	有・(無)	
6	その他（外部への対応）	有・(無)	

令和5年7月19日
代表取締役　　市川哲也

環境上の緊急対策

〈緊急時対策〉

想定される環境に於ける緊急事態について、環境への影響を最小限にくい止めること・内外への連絡を円滑に行うこと・可能な範囲で事前に想定、準備すること。また、定期的にその訓練を行う。
更に、緊急事態の発生や、訓練の後、対応の評価と改善策を行う。

想定のパターン	想定される緊急事態	原因	対応策
パターン 1	ショールームの火災	火の不始末	設置の消火器を 使用し、消火を行う。
2	大地震が発生	地震発生	店の外に出る。避難場所への避難

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
R5.1.27	大地震により頭上からの落下物の危険性あり		物が落ちてくる可能性があるので、頭を守りながら建物の近くを通らないように避難する。

参加者　曽根・オートザム店スタッフ

※評価と改善策

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等

参加者

環境コミュニケーション受付表

作成・管理担当：

NO.	情報 入手日	情報 種類	通報者	通報方法	住所 連絡先	内容	回答の 必要性	対応内容
1	/	対策・苦情		電話・メール （　　）		苦情等はなかった。	必要・不要	
2	／	対策・苦情		電話・メール （　　）			必要・不要	
3	／	対策・苦情		電話・メール （　　）			必要・不要	
4	／	対策・苦情		電話・メール （　　）			必要・不要	
5	／	対策・苦情		電話・メール （　　）			必要・不要	

問題の是正及び予防処置

記録日
担当者

	日付	対象項目	原因	是正及び予防処置
1		問題は特になかった。		
2				
3				
4				
5				